

## COG2025 応募内容確認書

ID	48-24-2
自治体名	兵庫県宝塚市
自治体提示地域課題	田園地域の活性化
チーム名	まるっとセブンティーン
アイデア名	西谷・第二のおじいちゃんおばあちゃんプロジェクト
チーム属性	混成：市民と学生（ ）の混成チーム
チームメンバー数	5
代表者	大霜 優花
メンバー（公開）	大霜 優花, 庄司 奏音, 田頭 晴花, 荒川 晃太郎, 齊藤 文香

### 【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

# アイデア提案書

---

アイデア名：

西谷・第二のおじいちゃんおばあちゃんプロジェクト

チーム名：まるっとセブンティーン

チーム属性：市民学生混合

メンバー：

大霜優花・庄司奏音・田頭晴花・荒川晃太郎・齊藤文香

該当する自治体名：宝塚市

自治体提示の地域課題：田園地域の活性化

## 1. アイデアの説明

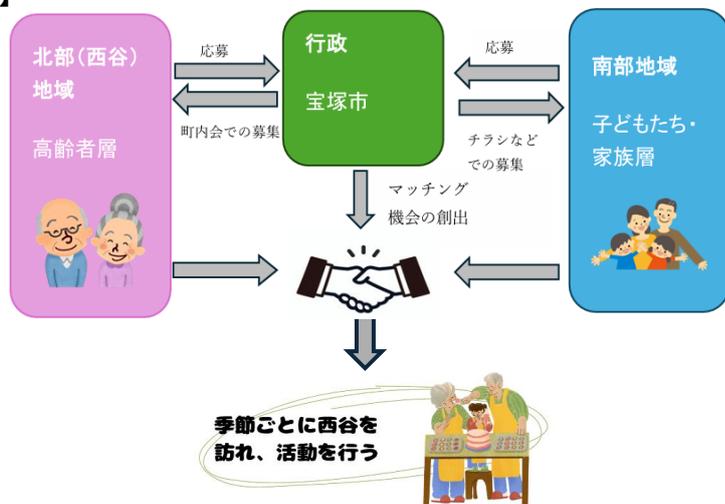
### 【アイデアの概要】

#### ～西谷・第二のおじいちゃんおばあちゃんプロジェクトで西谷地域を元気に！～

我々は、第一に宝塚市南部地域の住民が西谷を継続して訪れる動機をつくること、第二に西谷の高齢者が外部とつながる役割を持てる仕組みをつくること、第三に地域交流とデマンド交通を連携させ、交通の持続に必要な利用需要を確保することの3つを政策の軸として案を考えた。

本提案は宝塚市北部の西谷地域において、南部地域の子どもとその家庭が西谷の高齢者＝「西谷・第二のおじいちゃんおばあちゃん」と継続的に交流する仕組みをつくるものである。ここでいう「第二のおじいちゃんおばあちゃん」とは、血縁関係がなくても心で繋がるもう1つの家族のような存在である。自然豊かな西谷の環境と、強い地域コミュニティという地域資源を活かし、季節ごとの交流を通して、“人に会いに行く”という来訪動機を生み出すことが目的である。イベントのように単発で終わるのではなく、継続的な交流を軸に行う。定期的な繋がりを大事にする、つまり心の繋がりを大切にすることで、“また西谷に行きたい”という気持ちを育てることを目指す。

### 【実施内容】



#### ● 誰が

##### ・宝塚市（行政）

制度の調整、マッチング、安全管理、デマンド交通との連携を担当する。

##### ・本アイデア提案チーム

企画立案の補助や活動のボランティアを行う。

●誰に

- ・南部住民のうち、6歳以上15歳以下の子ども（小中学生）とその家族
- ・西谷地域の高齢者（ホスト）  
※市の募集により登録する。

●何を

南部の子どもとその家族は、ホストと自然に関連した以下のような活動を通して1日を一緒に過ごす。ホストと参加する家族の組み合わせは1年間固定する。

（交流活動例）

春：山菜採り・田んぼの見学・畑の土づくり

夏：川辺での自然観察・夕涼み会・お泊り会

秋：稲刈り・収穫体験・秋まつり

冬：味噌づくり体験・薪仕事・囲炉裏での語り

活動は季節ごとに活動内容を変更しながら実施する。

特に宝塚市が問題視している草刈りの人手不足については、活動内容に重点的に取り入れる。活動の中で育てた米や野菜などは、西谷ふれあい夢プラザや市内のスーパーマーケットで販売する。

●いつ

- ・月1回程度で開催する（土日祝のいずれか）

●どこで

- ・農地・田んぼ・里山
- ・公民館
- ・ホストの自宅

●どのように

1. 宝塚市がホストとなる高齢者を募る。
2. ホストからやりたい活動を募集し、意見に沿ったプランを宝塚市が提案する。
3. ホストはやりたいプランに応募し、市は応募数に応じてホストを2～3人のグループに分ける。
4. チラシ、募集のプラットフォームを作る。
5. 小中学校にチラシを配布する。参加者は、チラシからプログラムに応募する。
6. 南部地域の家族の応募に合わせてホストとマッチングをする。  
（各グループ2～3家族）
7. 毎月交流会を開催する。デマンド交通で送迎を行う。

## 2. アイデアの理由

### 【宝塚市北部（西谷地域）の現状と課題】

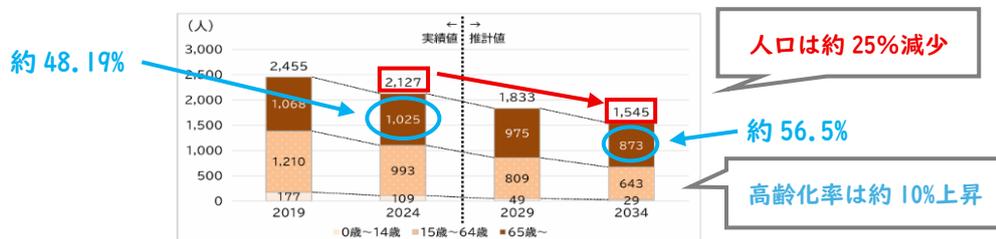
宝塚市北部に位置する西谷地域は、豊かな自然環境と農村的景観を有する一方で、人口構造や地域との関わりにおいて、宝塚市全体の中でも特に深刻な課題を抱えている。

主に、以下の3つの課題が挙げられる。

#### ① 少子高齢化の進行に伴う問題

西谷地域は高齢化率が48.19%と宝塚市内で最も高齢化率が高い地域であり、若年層・生産年齢人口の減少が著しく進行している。さらに2034年には、高齢化率は約10%上昇する見込みである（図1）。西谷地域の自治体参加率は70.58%と市内で2番目に高い加入率で（図2）、ボランティア、老人クラブ、収入のある仕事など社会活動への参加割合は市全体より高い。その一方で、健康リスクは市全体より高い傾向にある。<sup>[1]</sup>これは組織への所属や制度的な参加が、日常的な交流や外出、実質的な社会参加に繋がっていないことを示している。また、集落が点在し交通利便性が低いことから高齢者の外出機会が制限されやすく、引きこもりや孤立が生じやすい環境にある。実際、高齢者の閉じこもりリスクは市全体の平均割合が14.9%なのに対し、西谷地域は28.6%と約2倍の数値をとっている。また、宝塚市平均と比べて主観的幸福感が高い高齢者の割合が低いことも、少子高齢化が生活の質に影響を及ぼしていることを示している。<sup>[1]</sup>

（図1）西谷地域の年齢別人口推移（推計）



出典：宝塚市西谷地区まちづくり協議会(2024)「地域カルテ」をもとに筆者加筆修正

（図2）西谷地域の自治体参加率



出典：宝塚市西谷地区まちづくり協議会(2024)「地域カルテ」をもとに筆者加筆修正

#### ② 人口の減少に伴う問題

西谷地域の現在の人口は約2,000人で、2024年から2034年までに約25%減少すると予

測されている（図 1）。これに伴い、自治会運営や農業、地域行事などを担う人材が不足し、地域機能の維持が困難になっている。人口減少は、地域内での役割や仕事の機会の減少を招き、役割喪失や意欲低下に繋がる。結果として、地域の活力低下やさらなる人口流出を招く悪循環が生じる可能性がある。

### ③ 宝塚市における南北間の交流が少ないこと

西谷地域では、地域外から継続的に関わる関係人口が十分に形成されていない。地域幸福度（Well-Being）指標によると、「地域とのつながり」の観点において、主観指数は 62.9 と比較的高い一方で、客観指数は 46.5 と低い水準にとどまっている。<sup>[2]</sup> これは、住民自身は「つながっている」という意識を持っているものの、実際には交流機会や外部との接点といった客観的な環境条件が十分に整っていないことを示している。一方で、宝塚市高齢者福祉計画・第 7 期宝塚市介護保険事業計画によると、西谷地域は地域づくりへの参加意向を持つ住民の割合が市全体より高く、地域内の関心は高い。<sup>[1]</sup> ただ、その担い手は主に西谷地域の高齢者に限られており、新たな人材の確保が必要である。また、2026（令和 8）年度末に民間バス事業者が撤退する予定であり、新たに導入されるデマンド交通も、利用する人が増えなければ持続可能性を確保できないという課題が存在する。

## 【政策の有効性】

### ① 高齢者の社会参加が健康に直結する

社会活動への関与は孤独感の軽減や身体機能の維持につながり、認知症予防にも効果があるとされている。実際に、ボランティアグループなど地域組織への参加割合が高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない傾向が確認されている。また、趣味関係のグループへの参加が活発な地域では、うつ得点の平均が低いという相関も見られる。<sup>[3]</sup>

### ② 子どもが地域の大人との関わることで成長において良い影響をもたらす

文部科学省の調査では、異世代交流を経験した子どもの方が、社会性が高くなる傾向にあるという結果がある。<sup>[4]</sup> また、核家族化により子どもが「祖父母的存在」と関われない家庭が増えている。

### ③ 地域コミットメントを介すことが継続的な来訪に繋がる

満足体験は一時的に再訪意欲を高めるが、その効果は時間とともに減衰する。一方、訪問時の交流を起点に、訪問後も情報発信や地域製品の消費といった関わりが継続することで、地域への親しみや愛着である地域コミットメントが高まり、持続的な再訪意欲が形成される。<sup>[5]</sup>

### 3.実現までの流れ

#### (1) 実現プロセス

2025 年 11 月に対面で宝塚市の企画経営部企画政策課の職員の方に企画に関して意見交換の場を設けていただいた。その際、実現可能性やプロジェクト内容に関して意見をいただき、それらの意見を取り入れた。市が主催のため、予算も市が計上する必要があると考える。令和 8 年度当初予算要求は終了していることから、令和 8 年度に本事業をスタートするのではなく令和 9 年度からの事業スキームで以下のとおり考える。

1年目 (令和8年度)	4月	ホストの 募集	初年度の活動に参加する西谷地域の住民を募集し、 ホストとして登録するホストとして登録する。 →実現可能な範囲を聞き取り、プロジェクトの構築づくりを行う。 (活動内容、頻度など)
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月	予算要求	プロジェクト実現に向けて費用獲得のため 宝塚市から予算の調達を行う。
	10月		
	11月		
	12月		
	1月	準備	募集要項やチラシの作成等、募集のための最終準備を行う。
	2月		
	3月	応募期間	各小中学校チラシを配布、応募開始
	2年目 (令和9年度)	4月	
5月		マッチング	ホストと参加家族の顔合わせを行う。
6月		活動期間	政策導入初年度の2年目のみ、試験的に2か月に1回の頻度で行う 具体的には、6月・8月・10月・12月・2月に交流活動を行う。 一方、7月・9月・11月・1月については、前月に実施した 交流活動の内容や参加状況、課題点に関するフィードバックを行い、 その結果を踏まえて次回の活動内容や運営方法の改善を図る期間とする。 このように、実施と振り返りを交互に行うことで、事業の質を高めながら 段階的なブラッシュアップを目指す。
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月	政策の改善	次年度以降に向け、参加者アンケートやフィードバックを行う	

## (2) 実現主体

- ・宝塚市（北部振興企画課、農の魅力創造課）
- ・地域自治会
- ・本アイデア提案グループ

## (3) 必要な資源

### ●ヒト

- ・西谷地域の住民（ホスト登録者）：30～50人程度
- ・参加者
- ・市の職員
- ・ボランティアスタッフ：グループに2～3名
- ・西谷まちづくり協議会
- ・JA・農会

### ●モノ

- ・活動場所（公民館・農地など）
- ・活動に使う備品（工作道具など）

### ●カネ

- ・チラシ：3万円～5万円（宝塚市南部の小中学生に配布・掲示）
- ・参加者保険：市主催であれば既存保険を適用可能なため追加費用なし
- ・ボランティア：有償ボランティア 1000円/1回
- ・ホストである高齢者の方の活動費：不要と考える
- ・消耗品費：草刈りをする場合のチップソーや燃料費等 10万円  
（マッチング管理、広報、交通調整費）

## (4) 制度的制約とその解決策

- ・個人宅訪問のリスク

→長期休みを利用して子どもがホストの家に1日以上滞在する場合もあるが、普段の活動に家族も一緒に参加することが、ホストに対しても家族に対しても安心材料になる。

- ・高齢者への負担

→ホストを2～3人のグループに分けて行うことで、1人1人の負担を分散する。

また、ボランティアスタッフを配置することでも負担の軽減を図る。

### (参考文献)

[1] 宝塚市,宝塚市高齢者福祉計画・第7期宝塚市介護保険事業計画,2020,[https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/041/318/8ki\\_chapter2-1.pdf](https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/041/318/8ki_chapter2-1.pdf), (閲覧日 2025/12/20)

[2] デジタル庁,地域幸福度 (Well-Being) 指標,2025, <https://well-being.digital.go.jp/dashboard/> (閲覧日 2025/12/20)

[3] 厚生労働省,“社会参加と介護予防効果の関係について”. 2018. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000087538.pdf>, (閲覧日 2025/12/20)

[4] 国立教育政策研究所,“子どもの社会性が育つ『異年齢の交流活動』”. 2011. [https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2306sien/2306sien3\\_2s.pdf](https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2306sien/2306sien3_2s.pdf), (閲覧日 2025/12/20)

[5] 岩永洋平 (2019)「観光リピート意向と関係人口はいかに形成されるか」『地域活性研究』, 2019, vol.12, pp.15-24.